

化研、普及へクラウドファンディング活用

大盤オセロ、世界に広がれ



先進化学技術開発を手掛ける化研(水戸市)が、4×4の3台だ。盤面を埋まった球状の石を、自社で開発した「大盤オセロ」の量産化や知名度の向上を目指し、クラウドファンディング(ＣＦ)を始め、オセロ発祥の地である水戸を手始めに設置箇所を増やし、「地域における交流の場を広げていきたい」(同社)考えた。

水戸市役所の敷地内に2018年12月に設置された大盤オセロは通常の8×8マスのほか、6×6、4×4の3台だ。盤面を埋まった球状の石を、自社で開発した「大盤オセロ」の量産化や知名度の向上を目指し、クラウドファンディング(ＣＦ)を始め、オセロ発祥の地である水戸を手始めに設置箇所を増やし、「地域における交流の場を広げていきたい」(同社)考えた。

水戸市役所の敷地内に2018年12月に設置された大盤オセロは通常の8×8マスのほか、6×6、4×4の3台だ。盤面を埋まった球状の石を、自社で開発した「大盤オセロ」の量産化や知名度の向上を目指し、クラウドファンディング(ＣＦ)を始め、オセロ発祥の地である水戸を手始めに設置箇所を増やし、「地域における交流の場を広げていきたい」(同社)考えた。

水戸市役所の敷地内に2018年12月に設置された大盤オセロは通常の8×8マスのほか、6×6、4×4の3台だ。盤面を埋まった球状の石を、自社で開発した「大盤オセロ」の量産化や知名度の向上を目指し、クラウドファンディング(ＣＦ)を始め、オセロ発祥の地である水戸を手始めに設置箇所を増やし、「地域における交流の場を広げていきたい」(同社)考えた。

ガハウスから許可も得て同社の藤沼克嘉会長が市に寄贈した。

19年から市内の交流イベントやJ2水戸の試合会場などに試作盤を出展している。子どもからお年寄りまで幅広い年代の人が「ひっきりなしに遊んでくれる」(同社)。

そんな様子を見て、もっと普及できないかと考え、CFに乗り出した。

10月末からCF運営会社「READYFOR(レディーフォー)」のサイトでCFを始め、現時点で寄付金額は30万円弱となっている。目標額の50万円では実際の製作費はまかなえないというがそれでも「まずは大盤オセロの知名度を上げたい」との思いを込めた。11月29日まで寄付を受け付け、化研も寄付の代行手続きを手掛けている。

同社の挑戦はCFでは終わらない。「大盤オセロ普及プロジェクト」として水戸から日本全国、イベントなどに試作盤を持ち出し、人気を集めている。

まず水戸で設置増 量産化も検討

さらに世界へと広げていきたいという。今回のCFは第一弾に位置づけ、水戸市内の児童養護施設に寄贈するのが目標だ。

同時に軽量化をはじめ低コスト化するための方法を検討し、量産化を図る。「社会の役に立てれば」との考えから、大盤オセロの組み立てには障害者に携わってもらい、自立や就労も支援していく計画だ。

同社は「オセロ」水戸」のイメージを浸透させるべく、「水戸市内にオセロスポットを作りたい」と強調する。街中やスーパーマーケットのイートインスペース、公共施設などに設け、日常で気軽に遊べる場所に仕立てる構想だ。

地域でのコミュニケーションが希薄になりがちな今日だからこそ、「人々の交流が生まれれば地域にも活気が生まれる」(同社)。大盤オセロに込められた願いは、どこまで広がりを見せるのだろうか。

(水戸支局 生田啓臣)